

令和4年度

3 ポリシー（入学者受入れの方針、教育課程編成・実施の方針、  
卒業認定・学位授与の方針）に照らした取組に関する意見聴取  
報告書

総合福祉学部

社会福祉学科  
福祉心理学科  
福祉行政学科

総合マネジメント学部

産業福祉マネジメント学科  
情報福祉マネジメント学科

教育学部

教育学科

健康科学部

保健看護学科  
リハビリテーション学科  
医療経営管理学科

2022年9月21日

総務部企画課

学外有識者所属：企業

対象学科：総合福祉学部 社会福祉学科

同 福祉心理学科

同 福祉行政学科

事前資料：3 ポリシー、カリキュラム一覧、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、  
履修系統図、With You2023

書面報告：あり

ヒアリング：なし

### 【総合福祉学部 共通】

#### ○ポリシーについて

3 ポリシーは納得感がある。福祉の専門職として諸課題を解決していくにあたっては、自身の知識の深化だけではなく、他者に説明し他者を巻き込む「伝える力」や「共感してもらう力」も重要であり、ディプロマ・ポリシーからはそれが理解できる。

一方で、現在のカリキュラムにおいて、「ICT 活用技術」や「国際社会の知識や理解」の深化ははっきりと読み取ることができず、文章作成能力、論理的思考力等と並列にせず、特にこれから学ぶ者にとって必要なものとして別にしても良いのではないかと感じる。

特に、介護現場では、少子高齢者、人口減社会に対応していくため、介護ロボットや ICT の導入は必須となり、さらに外国人介護人材等も含めた多様な人材の受入れも進んでいく。その際には、単なる ICT 活用技術ではなく、介護の質の向上や利用者の自立支援につながるよう倫理観をもって活用できる能力が必要となる。また、多様な人材が働きやすいようマネジメントできる能力も必要となることから、文章の中で明確に表現されても良いのではないかと感じる。

#### ○ディプロマ・サプリメントについて

社会福祉を学ぶ者が福祉・介護・保育等の現場ではなく、一般企業に進むことは少し残念なことではあるものの、企業から見れば、社会福祉を学んだ者は、人として、社会人として安定した基礎能力を有していると捉えることができ、欲する人材と感じる。特に、企業内では発達障害や精神的に課題を抱える社員は年々増えてきており、ウェルビーイングや心理的安全性の確保といった視点は重要なテーマとなっている。このため、総合福祉学部を卒業する者にそれらの能力が身につけていることが可視化されることは、学生にとっては目指すべき人物像の確認となり、企業にとっても求める人物像の確認につながる。

評価指標は、3つのポリシーが影響すると思うため特段新たな視点を追加するものではないと感じるが、社会福祉、人、地域に関する基本的な理解の他に、以下のような能力に関する指標があると良いと感じる。

- ✓ 表面に見えない物事の本質を捉える思考能力を有している（Why 型思考）
- ✓ 多様な価値観を受け入れ、他者を巻き込み、協働できる力を有している

- ✓ 自身の得意、不得意を理解し、物事に謙虚に向き合う力を有している
- ✓ 前例や現状につねに疑問を持ち、未来を変えていく力を有している
- ✓ 自ら発信し、伝えていく力を有している
- ✓ 誰のためのものなのか、常にその先にある誰かを考えていくことのできる力を有している

○ 社会福祉士と精神保健福祉士の合格率について

「With You 2023」の各学科紹介を拝見すると、特に社会福祉学科は資格取得に力を入れていると見受けられる。学科の人数に対し、受験資格は定員制を設けているため、受験を希望する学生が多いと考えられるが、2022年3月卒業者の社会福祉士、精神保健福祉士合格者が全国平均を下回っていることは気にかかる。合格率が低い要因は何であるのか。

企業に就職する学生も多いことから、年次途中から資格取得に対するモチベーションが多少低下することが想像できるが、学生には現場に就職しなくとも、福祉の知識は様々な場面で活かされることを理解してもらい、学びの成果として資格取得が位置付けられると良いと感じる。

○ 実習先、インターン先について

実習先の印象は進路に大きく影響すると思う。実習先の中心は学校の系列法人かと思われるが、実習先やインターン先での学びの内容が入学前からイメージできると良いと感じる。また、求める人物像からは、自ら実習先を開拓することもひとつの選択肢としてあると感じるが、そのようなことが可能なのか気になった。また、特にこれからの時代、ICTを積極的に活用している施設や多様な働き方を導入している施設等で実習ができると、学生たちの視野がより広がるのではないかと感じる。

### 【社会福祉学科】

- ・ 「With You 2023」からは、資格取得のための学科という印象が強く、学校が示しているポリシーが学生たちにどの程度浸透しているのか気になった。学びの面白さがもっと伝わるよう、具体的な学びの内容を紹介しても良いと感じる（総合マネジメント学部の「学びの特色」のような具体的な事例があると興味が湧く）。
- ・ 様々な資格取得が可能な印象を受けるが、社会福祉士や精神保健福祉士と教職課程（福祉課）の両立ができないのは、カリキュラム的に難しいのであろうか。
- ・ 就職先に企業が多いように、福祉の教育課程を経ても現場を希望する学生は多くない。学生たちには「福祉、介護の魅力を発見する。自ら作っていく。」という気持ちが教育を通して培ってほしいと感じる。これからの福祉、介護現場は他業種以上に、国際化、利用者や働く人材の多様化、地域や関係機関との連携の強化、マネジメント力が必要とされる。他の学科と重複する部分はあるが、社会をデザインするという観点を持ち、専門職の地位向上を学生自身が意識できる教育内容が見えると良いと感じる。
- ・ 「ICT」と「国際教養理解」の科目は必修でもよい。
- ・ 教員の人数が多く、研究分野が多岐にわたるため、様々な関心を持った学生に対応できると感じた。

### 【福祉心理学科】

- ・ 社会福祉学科と同様、資格取得のための学科という印象が強い。オールジャンルの心理学を学ぶ必要性について、福祉心理学の学びの面白さが、入学前から理解できると良いと感じる。
- ・ 「With You 2023」で公認心理士養成の過程が示されていることで、入学前から心がまえを持っているのは良い。
- ・ 「ICT」と「国際教養理解」の科目は必修でもよい。

### 【福祉行政学科】

- ・ 今後の日本は、地域によって、高齢者の割合が大きく占めるところと、高齢化がピークを迎え高齢者人口も住民も減少傾向となり、医療・介護ニーズが縮小していくところが出てくる。地域の実情と将来の見通しを踏まえた対応をとる必要があり、「地域の活性化」という視点の他に、日本全体の社会保障の在り方を俯瞰して考えることのできる人材育成を謳っても良いと感じる。
- ・ さらに、公務員は、国、政令市、中核市、市区町村等、地域の規模は様々であるが、全てに共通する部分とその地域によって異なる部分があり、具体的事例を通して学ぶことができるのではないかと思う。単純に公務員を養成するというだけでなく、今後の公務員の在り方がメッセージとして含まれていてもよいと感じる。
- ・ HPに「教員紹介」のページがなく、社会福祉学科と共通なのか気になった。学生が受験する際に、教員の研究分野や研究内容を参考に、自身が学びたいことを深めていくのはよくあることのため、教員紹介はあったほうが良いと感じる。

学外有識者所属：教育機関

対象学科：総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科

同 情報福祉マネジメント学科

教育学部 教育学科

事前資料：3 ポリシー、カリキュラム一覧、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、  
履修系統図、With You2023

書面報告：あり

ヒアリング：なし

### 【総合マネジメント学部(共通)】

#### ○ 3 ポリシーについて

「教育研究上の目的」→「ディプロマ・ポリシー」→「カリキュラムポリシー」→「アドミッションポリシー」の順に、総合マネジメント学部における人材育成の流れ・構造を見ています。学部の「教育研究上の目的」が学部における最上位目標であると認識しました。もしそうであれば、そこには『人間活動におけるマネジメントの知識と能力』『リーダーシップ』の2つのキーワードが示されており、両ワードが学部として最も重視した資質・能力ということになると思いますし、両学科の3つのポリシーに貫かれるべきものと思います。両学科における「教育研究上の目的」には、各学科の特長である『経済・経営の視点』また『情報』等の視点を踏まえて『マネジメント力』『リーダーシップ』を育成する、との表現になるのではないかと、この2つのワードは外せないのではないかと思います。

○ 総合マネジメント学部の「ディプロマ・ポリシー」については、「教育研究上の目的」が学位授与される時点において、学生がどのような具体的な姿となっているのかを表現されるものと認識しておりました。学生がどのような資質能力を備え、どのように行動し、どのような社会貢献が期待できるのかを表現することが期待されているのではないかと思います。他の学科では『福祉心理学科』『教育学科』が、備えるべき資質・能力の表現が分量的にちょうどよいように思います。

○ 「ディプロマ・ポリシー」に、『学士としての「質保証」の要請に応えます』との表現がありますが、主語は学生であり、どのような資質能力を身につけるのかとの視点が優先されると思います。具体的な資質能力と関連がなく大学側が主語となる表現は無くてもよいのではないかと思います。

### 【産業福祉マネジメント学科】

- 「アドミッション・ポリシー」の「2. 入学前に培うことを求める力」の「(1) 知識・技能」に国語・数学・英語に関する記載があります。教科科目を「学力」の3観点に振り分けるものではないと認識しております。「国語・数学・英語」を「学力」の1つの観点である「知識・技能」の要素と捉えているのではないかと誤解を与えかねません。「学力」は教科学力ではありません。重きをおく教科があるのであれば、学力の3要素とは別に示すべきと思います。福祉行政学科で掲げているアドミッション・ポリシーの表現やバランスがちょうど良いように思います。『〇〇学を学修するための基礎学力を備えた人』程度にとどめておいても良いかと思えます。
- 「教育目標」の「教育理念」4項目が両学科共通となっています。「教育目標」が上位概念で「教育目標」実現のための「教育理念」との位置づけのように見えるのですが、どちらが上位概念なのでしょう。異なる「教育目標」に紐づく「教育理念」であれば表現は異なるべきと思います。「教育理念」が上位概念であれば「教育目標」が下位になるようなレイアウトが望ましいと思います。
- 「カリキュラムマップ」に「主題」と「到達目標」が掲載されていません。「教育学科」「情報福祉マネジメント学科」にはありました。各授業科目で、何を学び、何ができるようになるかを学生自身が意識できるような手立てを講じることになっているのでしょうか。
- カリキュラム一覧、進路別履修モデル、履修系統図はよく整理されており、わかりやすいと思います。
- 社会起業・地域創生コース履修系統図①の下段→<知識・能力>は、<資質・能力>ではないのでしょうか。

### 【情報福祉マネジメント学科】

- 産業福祉マネジメント学科同様に、「アドミッション・ポリシー」の「2. 入学前に培うことを求める力」の「(1) 知識・技能」に国語・数学・英語に関する記載があります。教科科目は「学力」の3観点に振り分けるものではありません。「国語・数学・英語」を「学力」の1つの観点である「知識・技能」の要素と捉えているのではないかと誤解を与えかねません。「学力」は教科学力ではありません。重きをおく教科があるのであれば、学力の3要素とは別に示すべきかと思えます。「(2) ③表現力」に、『芸術・音楽・デザイン・スポーツなどのクリエイティブな活動に興味があり』とありますが、「表現力」について、これらの分野に特化したものと誤解を与えかねないと思います。学力の3要素に教科・科目を割り振るような表現についても、学内の他学科と確認していただいたほうが良いのではないのでしょうか。福祉行政学科で掲げているアドミッション・ポリシーの表現やバランスがちょうど良いように思います。『〇〇学を学修するための基礎学力を備えた人』程度にとどめておいても良いかと思えます。

- 「ディプロマ・ポリシー」に学科名の「福祉」のワードがほとんどありません。『社会福祉学の基本的知識を体系的に理解し』のみです。学位授与に関する方針であり、学科名の「福祉」と身につける資質能力を示す「ディプロマ・ポリシー」に乖離があるように感じます。カリキュラムマップや履修系統図を見ると、カリキュラムに「福祉」の授業科目が配置され、情報技術を活用した福祉分野の充実を図る研究が可能です。「With You 2023」でも「ヒューマンサポートコース」が示されています。  
「ディプロマ・ポリシー」においても「福祉」につながる資質・能力を盛り込んで良いのではないかと思います。
- 「カリキュラムマップ」は「授業科目」と「到達目標」および「ディプロマ・ポリシー」の資質・能力10項目との関連が示され、学生にとっては学ぶ目的の明確化が図られやすいと思います。「アドミッション・ポリシー」の資質・能力の項目については、学生が意識しやすい単純な表現で整理された方が良いのではないのでしょうか。「福祉心理学科」「福祉行政学科」「教育学科」が参考になると思います。
- カリキュラム一覧、進路別履修モデル、履修系統図はよく整理されており、わかりやすいと思います。
- カリキュラムマップの誤表記と思われる点、気になった点を記入しておきます。
  - ・プログラミング基礎Ⅰ→Ⅱ 基本的なな→「な」を削除。
  - ・社会福祉原論A→社会福祉観の変遷の学びぶ→社会福祉観の変遷を学ぶ。
  - ・リエゾンゼミⅡ→Ⅰで学んだ、→Ⅰが見当たりませんでした。
  - ・リエゾンゼミⅢ→Ⅰ、Ⅱでの学びを引き継ぎ→Ⅰが見当たりませんでした。
  - ・リエゾンゼミⅣ→自信の興味関心→自身の興味関心
  - ・デザインデザイン応用実習→デジタルデザイン応用実習
  - ・経済原論（国際経済を含む）Ⅱ→一国経済全体を焦点にあて→一国経済全体に焦点を当て
  - ・マクロ経済学Ⅰ→一国経済全体を焦点にあて→一国経済全体に焦点をあて
  - ・マクロ経済学Ⅱ→一国経済全体を焦点にあて→一国経済全体に焦点をあて

## 【教育学部(教育学科)】

### (1) 3ポリシー等について

- 教育学部のディプロマ・ポリシーに、「1.学生が身に付けるべき資質・能力」5項目と「2.教育に対する強い使命感と責任感を持ち,豊かな人間性を備えた学生」5項目の計10項目の資質・能力が示されています。『カリキュラムマップ』の冒頭にディプロマ・ポリシーを提示し,さらに各科目とディプロマ・ポリシーの各項目との関係を示しています。学生自身が身に付けるべき資質・能力を意識しながら各授業科目を履修できる効果があると思います。
- 教育学部と教育学科のディプロマ・ポリシーをそれぞれで定義していますが,同一のポリシーでは不都合があるのでしょうか。学部で1学科のみであるため同一でよいと思います。初等教育専攻と中等教育専攻でディプロマ・ポリシーに差をつけるのであれば,学部と学科でディプロマ・ポリシーが異なっても違和感はありません。
- ホームページで「教育研究上の目的」においても教育学部と教育学科で異なる表現になっています。「実践」と「省察」の資質・能力を重視されているように読み取れました。統一されてもよいのではないのでしょうか。
- 一方,カリキュラムポリシーの「3.学修成果の評価のあり方」では,「知識・技能の理解・修得」が評価の観点として表現されています。ディプロマ・ポリシーでは「資質・能力を身につける」との観点で表現されています。カリキュラムポリシーは,ディプロマ・ポリシーに紐づくものだと思います。カリキュラムにおける単位修得の集積により卒業に必要な資質・能力を身につけるプロセスであることから,カリキュラムポリシーにおいても評価の観点として「資質・能力を身につける」表現が一定程度あったほうがよいのではないかと思います。
- ホームページ内教育学科に掲載されているアドミッション・ポリシーは4項目となっており,いただいたファイル資料と同一の文言となっているのですが,「With You 2023」のP14に掲載されているアドミッション・ポリシーはホームページの内容と異なっています。さらに,P35の初等教育専攻と,p39の中等教育専攻でも違いがあります。入試ガイドブックP2には5項目が掲載されており,受験生はどのアドミッション・ポリシーが正式なのか混乱する可能性があると思います。入学の希望が強い受験生ほどアドミッション・ポリシーの一言一句に気を配って入試準備を進めます。  
掲載物が異なってもアドミッション・ポリシーの表現は変わらないほうがよいと思います。記載内容そのものが変わることは避けるべきと思います。
- アドミッション・ポリシーに「入学後の学修や実践に必要な知識や実践能力を有し,・・・〇〇していこうとする学生の入学を期待します。」とありますが,多様な選抜方法をカバーするように「求める学生像」を表現すると,この程度の表現にとどめておくことは適切だと思います。
- カリキュラム一覧,カリキュラムマップ,進路別履修モデル,履修系統図はよく整理されており,わかりやすいと思います。

### (2) 資料の中で誤表記が散見しており,修正が必要に思われます。



学外有識者所属：医療機関

対象学科：健康科学部 保健看護学科学科

同 リハビリテーション学科

同 医療経営管理学科

事前資料：3 ポリシー、カリキュラム一覧、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、  
履修系統図、With You2023

書面報告：あり

ヒアリング：なし

### 【保健看護学科】

- ・アドミッション・ポリシー項目2の「入学前に養うことを求める力」は分かりづらい表現と思います。「履修過程で必要となる力」などの意味でしょうか？あるいは、入学前の短期期間に身に着けるべき知識・能力・態度のことでしょうか？あるいは、ディプロマシー・ポリシーと共通している部分があるため、入学後に磨く力でしょうか？
- ・国家試験合格率は、看護師 97.7%、保健師 95.0%、助産師 100%と高い点は評価できる。

### 【リハビリテーション科】

- ・同じリハビリテーション科であるが、作業療法と理学療法の違いの記述が抽象的であるため、仕事の内容の具体的な違いがあったほうが、入学時の選択に有用と考えます。特に作業療法士の仕事内容は、一般に理解が十分でないため、丁寧な説明が必要と考えます。
- ・アドミッション・ポリシー項目2の「入学前に養うことを求める力」は分かりづらい表現と思います。「履修過程で必要となる力」などの意味でしょうか？あるいは、入学前の短期期間に身に着けるべき知識・能力・態度のことでしょうか？あるいは、ディプロマシー・ポリシーと共通している部分があるため、入学後に磨く力でしょうか？
- ・国家試験合格率が、作業療法士 95.1%、理学療法士 95.2%と高いことは評価できる。

### 【医療経営管理学科】

- ・医療情報管理やメディカルクラーク、救急救命士、健康運動実践指導者は、各々かなり性格が違った職業と思います。一つの学科にまとめると学習内容がイメージしにくいと感じます。
- ・前項と関連し、医療情報管理やメディカルクラーク、救急救命士、健康運動実践指導者で、それぞれでアドミッション・ポリシーやディプロマシー・ポリシーが異なっているように思います。すべてまとめて記載するのは無理があるように思います。